

# 第46回「てのひら文庫賞」岐阜県読書感想文コンクール

最優秀賞・岐阜県知事賞 作品

## 最優秀賞・岐阜県知事賞

1年自由図書部門／読んだ本・くまの「うつじょうせんせい」

### “ぼくがびょうきになつてわかつたこと”

岐阜市立則武小学校 岩垣重晴

このほんをおじいちゃんからもらつて、さいしょによんだときはなかなかつたけれど、いまのぼくはよんだらないでしまう。

くまのこうちょうせんせいがひつじくんにはなしたことばで、ぼくがいつもないてしまうところがあります。それは、「せんせいね、びょうきになつてわかつたことがあるんだよ。おおきなこえをだそうとおもつても、だせないときがあるんだね。できなくなつて、はじめてわかつたんだ。ひつじくん、おおきなこえをだそうねって、いっぱいいつて、ほんとうにわるかつたね。」といふところです。

ぼくはたくさんにゅういんして、けんさをしたり、しゅじゅつをしたりして、いたくつらくてかなしいおもいをたくさんしています。

ぼくもびょうきになつてはじめてわかつたことがあります。それは、まずびょうきになつてできないことがあります。たべられないときがあること、ねこんでいないといったときもあります。また、ほ

こうきをつかわないときや、かいだんをのぼることができなくなるときがあります。いちばんおもつたことは、いっぱいのひとがぼくのことたすけてくれるということです。リハビ

リのせんせいは、いつもぼくができることをすこしづついつしょにちようせんして

くれたりします。かんごしさんは、だいじょうぶといつてくれます。みんなぼくをたくさんほめてくれます。

みんなはぼくのおはなしをきいてどうおもいましたか？びょうきのひとのきもちを、すこしずつわかつてくれるとうれしいです。だれかにことばをつたえるときは、あいてのきもちをかんがえることができます。おもい

くはおもいます。

このほんをおじいちゃんからもらつて、さいしょによんだときはなかなかつたけれど、いまのぼくはよんだらないでしまう。

くまのこうちょうせんせいがひつじくんにはなしたことばで、ぼくがいつもないてしまうところがあります。それは、「せんせいね、びょう

きになつてわかつたことがあるんだよ。おおきなこえをだそうとおもつても、だせないときがあるんだね。できなくなつて、はじめてわかつたんだ。ひつじくん、おおきなこえをだそうねって、いっぱいいつて、ほんとうにわるかつたね。」といふところです。

なぜいつもぼくがないてしまふのかといふと、ぼくもびょうきをもつているからです。